

実施報告書

施設番号	66-0194
施設名	練馬二葉保育園
施設所在地	練馬区豊玉南 3-31-15
法人名	社会福祉法人和敬会
活動期間	令和7年4月～令和8年3月
実施回数	8回
対象クラス	0歳児クラス(10名)、1歳児クラス(20名)、2歳児クラス(22名)
活動内容の公表	活動内容のドキュメンテーションを作成し園内に貼り出して周知した。

すくわくプログラム

～乳児クラス～

テーマ 感触

テーマの設定理由 ・心地よい環境の中で五感を通して色々な世界を知ってもらいたいという思いからテーマを「感触」と設定する。
保育者の見守りの元、情緒の安定や好奇心の育ちを促し、様々な触感を経験し、手指の発達や言語発達につなげていく。

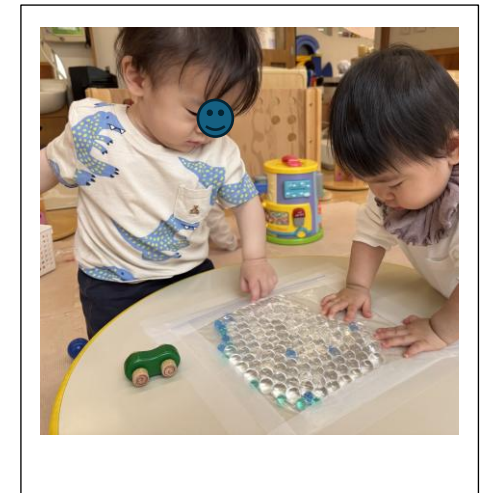
【事例1】

活動名 「色々な感触に触れてみよう」

- ねらい いろいろな感触に気付いたり、知る。
- 活動内容 ビニール袋に水やジェリーボールを入れて密閉したものに触れる。
- 用意した環境 ジップロックにジェリーボールを入れた

子どもたちの様子

最初は「これ何だ…？」と不思議そうに見つめていた子どもたち。
つんつんと触れてみるとゆらゆら中身が揺れる様子を見て楽しみながら触れる子が増えていきました。中には袋に顔をつけてひんやりする感触を喜ぶ子も。



保育者の振り返りと気づき…最初は触ってみると中の物が動いたりし、驚く様子もあったが徐々に慣れ、感触もだが見た目にも楽しめている様子だった。
今後も様々な感触遊びを取り入れていく。

【事例2】

- | | |
|---------|-------------------------|
| 活動名 | 絵の具にふれてみよう |
| ○ねらい | 絵の具の感触にふれる |
| ○活動内容 | 絵の具に手や指でふれ、画用紙に自由に描いてみる |
| ○用意した環境 | 大きい画用紙、絵の具 |

子どもたちの様子

おそろおそろ絵の具にふれ、感触を楽しんだ。冷たくてやわらかい
絵の具の不思議の感触にふれ、嫌がる子、楽しくてずっと絵の具を手付けて
遊んでいる子、一人ひとり違った反応が見られた。

保育者の振り返りと気づき

絵の具の感触を嫌がる子も多かったが、初めての感触だから慎重になっていた様子。慣れてくると楽しめている子もいた。絵の具を使った制作や遊びを取り入れ、経験を増やし、今回の感触遊びを広げていきたい。



【事例3】

- 活動名 水遊びを楽しもう
- ねらい 水に親しみ、水の感触にふれる
 - 活動内容 水遊び
 - 用意した環境 個々のタライ、水、水遊び玩具

子どもたちの様子

水にふれることを喜び、自分からパシャパシャと水しぶきをあげて楽しんでいた。
保育士が上から滝のように水をかけると笑い声や驚きの声をあげて、
嬉しそうに勢いよく落ちる水にさわろうとしていた。

保育者の振り返りと気づき

それぞれの楽しみ方で水にふれて楽しめていたので良かった。
水の感触に慣れず、触れる事に慎重になる姿も見られたので、夏の間
水遊びを安全に楽しく行えるよう配慮し、回数を重ねて水に慣れ、水の感触を楽しみ、
特性を知る機会となるようにしたい。



【事例4】

- | | |
|---------|------------------|
| 活動名 | 粘土に触れてみよう |
| ○ねらい | 粘土を丸めたり握って感触を楽しむ |
| ○活動内容 | 粘土遊び |
| ○用意した環境 | テーブル、椅子、粘土 |

子どもたちの様子

粘土をちぎったり、細長く伸ばしたりと様々な形にしながら感触を味わっていた。

保育士が餃子やドーナツの形にすると真似をして丸く伸ばしたり、粘土に指で穴をあけてみたりする様子が見られた。指先を良く動かし集中して形を作っていた。

また、絵の具で色付けをすると「ハンバーグ」「バナナ」など食べ物に見立てて作っている子もいた。

保育者の振り返りと気付き

保育士が粘土を伸ばしたり、丸めると子ども達もその様子を見て真似をしながら様々な形を作っていた。粘土に色を付けると、最初は普段と違う色の粘土に触ることに慎重になっていたが、粘土の色によって食べ物に見立てて作っていくと、触ったり、子ども達も食べ物に見立てて作って楽しむ様子が見られた。

指先に力を入れちぎったり、伸ばすことは指先の発達にも大いにつながり、より細かくしようと更に指先を動かすという好循環になっていた。粘土の硬さや今回のように色をつけたり色々バリエーションを増やすと遊びが広がりそうだと考える。



【事例5】

- 活動名 「寒天に触ってみよう」
- ねらい 寒天の冷たさや感触を楽しむ。
- 活動内容 寒天遊び
- 用意した環境 寒天、カップ、ままごと用スプーン、タライ、ブルーシート

子どもたちの様子

初めての経験だった為、最初は触ることをためらう姿もあったが他児や保育士が触っている姿を見て、握ってみたり、突っついてみたりと意欲的な姿も見られるようになった。

高月齢の子どもはままごとのカップやスプーンを使って、保育士とのやり取りも楽しんでいた。きれいな色や透明な寒天に興味深々で、細かくしたり混ぜたりしていた。

保育者の振り返りと気づき

少人数で寒天遊びを行う事で安全に感触遊びを楽しむ事が出来た。又、寒天に抵抗があるのか触ることを嫌がる子もいたので他児が触っている姿を見るなどと無理なく参加できるようにしていった。触る、握るなどの感触遊びからままごとへと遊びを発展させると友だちや保育士とやり取りを楽しみながら参加することが出来てよかった。色を付けた寒天を細かく碎き混ぜると色も少し混ざり、色の変化も見ることができた。色への興味関心や透明な物への関心へつながっていく事も期待し遊びの中に取り入れていきたい。



【事例6】

- 活動名 「砂に触れて楽しもう」
○ねらい 砂の感触の変化を楽しむ
○活動内容 砂遊び
○用意した環境 砂 シャベル 容器 キッチン玩具

子どもたちの様子

普段楽しんでいる砂遊びに「水も入れてみたい!」とバケツに砂を集め、自ら水を汲みに行っている。サラサラからザラザラ、そしてベチョベチョと自分で水の量を調整しながら感触が変わっていく様子を楽しんでいた。



保育者の振り返りと気づき

砂場の近くに自分で水を汲むことができる環境が揃っている為、

「水を入れたらどうなるんだろう?」と一緒に考えながら楽しむことができたのでよかった。

水の量を変えると感触が変わることに気付くことができ、少し水を入れて泥団子を作ってみたりと遊び方を広げることができた。



【事例7】

活動名	「寒天で遊んでみよう」
○ねらい	寒天の硬さや感触を楽しむ。
○活動内容	寒天遊び
○用意した環境	寒天、カップ、ままごと用ボウル、ままごと用スプーン

子どもたちの様子

二回目だったので触ることをためらう姿はあまり見られず
自分から「やりたい!」という気持ちを持ちながら楽しむ姿が見られた。
前回触ることを嫌がっていた子もやりたという気持ちが芽生え触れる事を楽しんでいた。
カップやスプーンを使いながら寒天でごっこ遊びを友だちと楽しむ姿もあった。



保育者の振り返りと気付き

今回も少人数ずつで寒天遊びを行っていたので満遍なく楽しむことができた。寒天に抵抗がある子も友だちの遊んでいる姿を、興味を持ちながら見ていたので無理のない範囲で遊びに誘っていくと、触れて楽しんでいる様子が見られたので良かった。前回から発展させ、様々な寒天の硬さを用意していくと、硬さの違いを保育士と一緒に感じながら触れることのできたので良かった。

【事例8】

- 活動名 「雪に触れてみよう」
- ねらい 季節の自然に触れることを楽しむ。
 - 活動内容 園庭に残っている雪をテラスに運び、触れる。
 - 用意した環境 雪を入れる容器、タオル

子どもたちの様子

冷たさに驚く様子もあったが、少しずつ慣れ、感触を楽しんでいた。
握っていると溶けてなくなってしまう事を不思議がる子もいた。



保育者の振り返りと気付き

東京では年に数回しか体験できないことなので、実際に触れてみるという経験ができたのは良かった。子どもによって興味を示す子と、嫌がって触らない子もいたので、ままごとの延長のような形で遊べるとより遊びが広がったように思った。また、雪に色を付けるなどしたら楽しかったかもしれない。まだまだ口に運ぼうとする子もおり、自然物で遊ぶ際には様子をよく見ていき、安全に楽しめるようにしていく。